



日本プライマリ・ケア連合学会
関東甲信越ブロック支部 活動報告

発行人
関東甲信越ブロック支部長
西村 真紀

ニュースレター No. 13 (2016. 3)

1. 代議員選挙結果と議員総会のお知らせ

関東甲信越ブロック支部支部長 西村 真紀

11月の代議員選挙の際にはたくさんの立候補ありがとうございました。定員に満たなかったために立候補全員が代議員となりました。関東甲信越ブロック28・29年度代議員数は291人で定員の69.78%でしたが代議員数は70人増えました。それに伴いブロック支部への活動費も増額となります。

平成28年度第一回議員総会は6月11日(土)12時～13時 浅草 を予定しておりますが正式にはお葉書にてご連絡差し上げます。短い時間で大変ご迷惑をおかけしますが会議進行を段取りよく行いたいと思います。代議員の皆様におかれましてはご出席よろしく願いいたします。

2. 都県支部からの報告

【群馬県支部活動報告】

群馬県支部長 高柳 亮

—群馬県支部総会・研究会報告—

2月20日群馬県医師会メディカルセンターにおいて、日本プライマリ・ケア連合学会群馬県支部総会・研究会が開催されました。冷たい雨の降るあいにくの天候でしたが、70名もの方々に足を運んでいただきました。

今年の研究会では群馬家庭医療学センター通町診療所の平洋(たいらひろし)先生に、「エンド・オブ・ライフケアの意思決定支援」と題して、アドバンスケアプランニング(ACP)を中心に、終末期の意思決定支援の現状と展望についてご講演いただきました。

前半は時代的背景から始まり、DNAR、事前指示、そしてACPについて、事例をもとにわかりやすく解説していただきました。意思決定支援に関して明らかになっている様々なエビデンスも紹介していただきました。後半は様々な価値観を持つ多職種が支援に関わることの意味についてお話しがありました。「かかりつけ医」の果たす役割や、多職種連携の重要性が明らかとなりました。

「最後の晩餐で食べたいものは?」「終末期について家族と相談した経験は?」「動けなくなったらどこで過ごしたいか?」など、会場の声を聴きながら進行するスタイルであったため、自分の問題として真剣に耳を傾ける参加者が多かったようです。実際に事前指示書を記入する場面では、ひとりひとりの参加者がその難しさを実感しました。

講演終了後は会場から質疑が殺到し関心の高さがうかがわれました。参加者のひとりからは、まるで「ヒーラー」のような語り口の平先生に自分も診てもらいたい、との感想が出されるなど、平先生の人柄が滲み出るすばらしい講演でした。私自身、いかに死を迎えるのかを考える作業は、いかに生きていくのかを考えることでもないと痛感しました。

支部総会では大会長高玉真光先生から、群馬でこの秋に行われる関東甲信越ブロック地方会についてご紹介いただきました。郡市医師会、群馬大学総合診療部をはじめ多くの先生方、また医師だけでなく様々な職種の方々にご参加いただいた今回の企画。これを機に様々なみなさんとの連携を強め、「地方会@ぐんま」も盛り上げていければと決意を新たにしました。

【千葉県支部（準）活動報告】

千葉県支部（準）長 林 直樹

千葉県支部設立準備委員会が平成 28 年 2 月 20 日(土) に世話人 14 人出席（世話人 18 人）して千葉市で開催いたしました。

まだ正式に支部設立にいたっていませんが漸く県支部設立に向けて始動いたしましたのでこれまでの経緯、現況の報告をさせていただきます。

千葉県では旧日本プライマリ・ケア学会時代の平成 6 年に千葉県プライマリ・ケア研究会（以下千葉 PC 研）が発足しました。千葉 PC 研は日本プライマリ・ケア連合学会（以下 PC 学会）設立後新たに PC 学会員として継続している会員は少数となり、千葉県医師会、看護協会、歯科医師会、薬剤師会の多職種の会として千葉県医師会医会として活動をしています。

PC 学会の県支部としていくには学会員が中心とした組織構成にすることが適切であるため、学会県内理事、会員有志、千葉 PC 研代表者、千葉県医師会副会長、担当理事と数回にわたって話し合いを持ちました。

その確認事項として①県内のプライマリ・ケアの名がついて活動する会がふたつあるのは適切ではない。②歴史ある千葉 PC 研の活動を尊重し、新たな県支部と協調し千葉県でのプライマリ・ケアの拡がり活性化をしていく。③県支部は千葉県医師会と協調し、多職種とも連携をしながら活動する。④PC 学会県支部は千葉 PC 研の委員会として位置づけ千葉 PC 研に入会する。⑤千葉 PC 研は PC 学会県支部活動の独立性を尊重する。

上記事項を踏まえ準備委員会が開催されました。委員会では活発な意見交換がされました。その中で「県支部をつくる意義は具体的に何か。形だけの支部ができてても会員の集約は得られない。その目的を明確にして発足すべきだ。」など根源的議論もでて、支部活動内容をもう少し詰めてから会員に周知する。秋に第 1 回の総会開催を目指すことを合意し終わりました。

PC 学会都県支部はそれぞれ都県状況を尊重し発足されてきています。県内状況にある多様性を集約していく道程に困難さが伴いますが、プライマリ・ケア医療（総合医療）を広め、活性化していくため千葉県支部に集まり、この領域の理解を深め実践をする中間的コア（学会と各医療機関・個人の）として存在できる支部を正式に設立をしていきます。

【東京都支部活動報告】

東京都支部長 鈴木 央

東京都支部では、次回 6 月の第 7 回学術大会においてメインシンポジウムを企画しております。東京都医師会の全面協力のもと、シンポジストとともに「東京の地域医療」について考えてみたいと考えております。多くの会員の先生のご参加を期待しております。

<詳細>

第 7 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

メインシンポジウム 1：「東京の地域医療」

シンポジスト 尾崎治夫東京都医師会長他

6 月 11 日(土) 午後 3 時より午後 4 時 30 分

第 7 会場（浅草ビューホテル 3 階 「祥雲」）

また、東京都支部では、支部活動に協力していただける先生を募集いたします。

ご協力いただける先生は下記までご連絡を下されば幸いです。

<連絡先> 鈴木内科医院 鈴木央
〒143-0023 大田区山王 3-29-1
E-mail: oh-suzuki@mtj.biglobe.ne.jp
FAX : 03-5743-3656

【埼玉支部活動報告】

埼玉県支部長 中根 晴幸

『関東甲信越ブロック地方会の埼玉開催を準備中』

前回の報告でお知らせしたとおり、27年11月のブロック支部議員会で平成29年度の第6回関東甲信越ブロック地方会の開催を埼玉県支部がお引き受けすることになりました。この報告が届くころには、運営委員会を準備して、具体的な内容の検討にとりかかれるよう考えています。ブロック10支部の一員として10年に1度の大切な機会ですので、各方面と協力のもとに運営し、皆様のご期待に応えられる様な学会開催を目指したいと思っております。よろしくご支援お願い申し上げます。

従来、私ども埼玉プライマリ・ケア（以下PC）連合研究会の活動の中心は、平成4年来、地域で育っていた病診連携から出発し、埼玉県の地域性に即した多職種協働と医療・ケア教育&推進に資する発表を主としてきました。また、この数年は医療系の多職種連携推進、その中での専門職連携の教育がテーマとされていまして。地方会はPC連合学会の活動ですので、現在のホットな問題である総合診療専門医養成の地域体制整備についても、さらに地域包括ケア推進の中で介護系を支える連携医療についても広くご発表をいただき、実のある検討を深めたいと考えています。

関甲信越ブロックのどの地域でも同様の問題を抱える中、埼玉県では「医療が手薄なこと日本一」「高齢化のスピードも我が国トップ」という圧倒的に不利な条件下にあります。難しい状況にある埼玉県での努力が他の地域にも役立つ成果をあげられるように、良いディスカッションを生み、他県にも役立つ工夫が生きるように、と前向きに取り組んでいきたいと思っております。

【山梨支部活動報告】

山梨県支部長 古屋 聡

山梨県支部では、2016年1月30日、弘前大学総合診療部 小林只先生をお招きして生涯学習セミナーとして「プライマリエコーセミナー」を開催しました。

「とにかく現場でエコーをつかいまくろう！」～エコーを駆使して正しい診断にいたる～という内容で、28人の参加者を集め、据え置きエコー・ポケットエコーをふんだんに使い、講義とハンズオンセミナーを楽しみました。

そのあと、続いて支部会議も開催し、

- こういった研修を年数回レベルにパワーアップすること
- 県内のプライマリ・ケア関連施設のサイトビジットなどの交流をはかること
- きたる専門医制とその養成プログラムにつき、県内関連機関が一致団結して、取り組むことが話しあわれました。（その後の懇親会も盛り上がりました）

また、たいへん力不足ではありますが、来年度の支部執行部の体制も、引き続き、古屋聡支部長（山梨市立牧丘病院）、志村直子事務代表（甲府共立病院）でいくことになりました。紙面を借りましてごあいさつさせていただきます。新年度もよろしくお願いいたします。

関東甲信越ブロックでは、ニュースレターにてブロック会員の皆様の活動報告なども掲載する予定です。掲載希望の方は以下メールアドレスまでご連絡いただければと思います。

日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック支部 事務局

kanto_koshinetsu@primary-care.or.jp

